

2005年10月4日

報道各位

住友金属鉱山株式会社

住友商事株式会社

モレンシ鉱山における選鉱場再開と精鉱リーチングプラントの建設について

住友金属鉱山株式会社(東京都港区 社長:福島 孝一)と住友商事株式会社(東京都中央区 社長:岡 素之)(以下、両社を合わせて「住友」という)は、米国最大手の産銅会社フェルプス・ドッジ社(本社:アリゾナ州フェニックス市)との共同事業であるモレンシ鉱山(米国アリゾナ州)において、休止中だった選鉱場を再開するとともに、生産される銅精鉱から電気銅を生産するために、精鉱リーチングプラントを建設することに合意いたしました。

選鉱場再開および精鉱リーチングプラントの建設に係る費用は合わせて約210百万ドルで、このうち住友の負担は、権益比率15%相当分の約31百万ドルです。なお、住友金属鉱山と住友商事の出資割合は、8対2です。

操業開始は、2007年の見込みです。

住友はフェルプス・ドッジ社のモレンシ鉱山に1986年から参画しており、現在はヒープリーチングおよびSX/EWによる電気銅生産共同事業を実施中です。モレンシ鉱山では、今後、現在のヒープリーチングによる方法では処理しにくい黄銅鉱の割合が増えることから、銅生産量の漸減傾向が見込まれます。これを補うために2001年から休止中だった選鉱場を再開するとともに、生産される銅精鉱をこのたび建設する精鉱リーチングプラントで処理し、新たに年間約7万トンの電気銅を生産する計画です。

精鉱リーチングは、選鉱により生産された銅精鉱を、加圧浸出することによって銅を溶解・回収するもので、ヒープリーチングでは溶けにくい黄銅鉱からも銅を効率よく回収できるプロセスです。精鉱リーチング技術については、これまでフェルプス・ドッジ社のアリゾナ州バグダッド鉱山において実証プラントによる試験が行われてきたところですが、その成果に基づいたこのたびのプラントは、黄銅鉱から湿式により銅を抽出する世界初の商業規模でのプラントとなります。

住友は、フェルプス・ドッジ社との間では強固な信頼関係を維持してきており、従来からの共同事業に加えて、先般ペルーのセロ・ベルデ鉱山への資本参加を行ったところですが、このたびのモレンシ鉱山における精鉱リーチングプラントの建設も、こうしたフェルプス・ドッジ社との共同事業の一環であり、これによりフェルプス・ドッジ社との一層の関係強化が期待されます。

住友金属鉱山は、今後も資源プラス製錬型の事業展開を推進し、コアビジネスである資源・金属事業の拡充・強化を進めてまいります。

住友商事といたしましては、インドネシア国バツ・ヒジャウ鉱山等において保有する銅資源上流権益に、フェルプス・ドッジ社との更なる戦略的提携を加えることにより、銅鉱山事業における地歩を一層堅固なものにします。また、工業化社会の発展に必要不可欠である金属資源の確保と長期安定供給という役割を果たすべく、商社機能の更なる充実と高度化に努めていきたいと考えております。

(本件に関するお問い合わせ先)

住友金属鉱山株式会社

総務部広報室 広報統括課長 高橋 雅史

TEL : 03 - 3436 - 7701

FAX : 03 - 3434 - 2215

住友商事株式会社

広報部 報道チーム 上田 昌彦

TEL : 03 - 5166 - 3096

FAX : 03 - 5166 - 6203

以上